五一新聞

2006.2.No.105 祖谷村役場

三月 沿 祖谷村 祖立へ

一月二十八日、東祖谷山村の閉村式がありました。東祖谷山村二七年の歴史にピリオドがうたれ、三月一日からは、三好市とくてスタートされることとなります。

特に東祖谷山村は、今後三好市東祖谷山という地名となり「村」という呼称は消えてしまいます。

希望の合併よりも、村がなくなる残念だという気持の方が強いのは単に失なっていく事への……

東祖谷賛歌

♪土の中から うたうのは誰ですか
草の芽そめとも 虫の声
大地に暖かい 風を入れましょう
木もれ陽 せせらぎ 春を告げる笛
東祖谷山 奥祖谷の
東祖谷山 奥祖谷山
川面にゆれる かずら橋
川面にゆれる かずら橋
山にはさまれて 青い空の
山にはさまれて 花びらの様に
白いソバの 白いソバの
この道を 抱むなよ
曲がりくねった 昔の人の道を歩け
ちっぽけだけど 素晴らしい人生を
燃えながら 燃えながら
歩んだ 歩んだ
故郷がある ホラ ホラ

作詞 前村 晴美
作曲

行政をとこの村は消えても、私達の心の中に村の灯をともしつづけようと、昨年より準備してきた、バーチャル村づくり。

十二月は雪で、準備会が中止となりましたが、組々と会議は続いています。

(月)、会議の開催が危ぶまれたが、どうにか開かれ、帯生地区での畑、西山地区での炭焼きまつり(仮)を中心に活動しようと新たな目標も出たりして、着々と準備をしています。

そこで、いよいよ、三月祖立村「祖谷村」に向けて、最後の一の話が今日という ことになります。

今、なくなっている助けあう社会、ささえあう社会に向けて、参加する人が、ただ参加するだけでなく、一村づくりを実行して行く社会をめざしていければいいなあとおもいます。

人口の過疎は防げなくても、自分たちの心の過疎は防ぐことは可能だとおもいます。

不便を楽しむ、田舎を遊ぶ、祖谷を面白く楽しく暮らす過ごし方の過疎化をなくすこと、消さ滅きとした日々をみつけていきたいとおもいます。

祖谷には「行ってみたい風景、遊んでみたい風景、住んでみたい風景」は確実に存在します。そこに「そこで死んでもいい風景」がプラスされると、過疎なんて、なんでもなくなります。

ともかく、祖谷の私達が、元気で楽しみ続けようとおもいますので、これからも祖谷へまっすぐ下さい。

また、祖谷村への参加やアドバイス、サポーターになって、共に祖谷を楽しみましょう。

綺しい事に、準備中にもかかわらず、「村民になるとの声、「準会員は全国にいるよ」との励ましの声が増えています。

どうなっていくかは、参加者の皆さんで決まります。

これからが本番です。

よろしくお願いします

祖立村づくり
準備会
2月は
5日(日)
です

第四回大会 おにくい隊連覇ならず

国際雪合戦

北海道、昭和新山国際雪合戦大会において、大二回国大会が一月二九日、東祖谷山村いやしの郷で開催されました。

当日は、真冬とはおもえない暖かい日で、熱戦を展開、てんこの会メンバーの高橋さんが監督で、全国大会で優勝し、北海道の国際大会へ参加した「おにくい隊」は、残念ながら二連覇はできませんでした。毎週の練習の成果を十分発揮できず、準決勝で姿をけしました。

その祖谷のイベントとしてスタートし、昨年より国際雪合戦連盟より公認され、国大会として開催されるようになりました。

村内青年たちのとり組みは、雪集め、会場設営等大きな力を発揮し、行政関係の皆さんと共に、大会の原動力となっています。

大変、ご苦労さんでした。この何年か大変な苦労でしたが、楽しめましたか?

どんなイベントもスタッフの皆さんが楽しそうにやっていると、参加者にも伝わって、イベントがすごく楽しく面白くなるものです。祖谷の大会後、高鳥県大会を見てきましたが、ただ見るだけでなく、その雰囲気を知ることが出来ました。国際は高いようです。